

HIJIRIDAYORI

しなやかに変化し続ける学校

聖だより

令和2年4月15日(水) [2020] 第2号

多摩大学 附属 聖ヶ丘中学高等学校

いまを大事にしよう！

「新型コロナウイルス特別措置法」第32条に基づく緊急事態宣言が発令されて約1週間が過ぎましたが、皆さん・ご家族にはお変わりありませんか。また、医療関係や保育・老人施設など感染症対策の職業に従事されている皆様には、格段のご苦勞をお掛けしています。その献身的な努力に心より感謝申し上げ、厚く御礼申し上げます。

しかし残念ながら、現状では東京都をはじめとして首都圏は、宣言解除の段階には至っていません。今後も引き続きご自愛いただくと同時に、感染拡大防止に対し、一層の努力をお願いいたします。

ところで、学習に対する支援について、先週、アナログではありますが、郵便にて紙ベースの課題等を準備し、郵送したところです。学年によっては、今後、追加の課題の郵送やクラッシーでの配信をすることにしています。授業と同様、皆さんの主体的で自主的な取り組みが問われている、試されているとも言えるでしょう。

そこで中学1-2年生の皆さんには、「おもしろそうだ」「興味がわいてきた」こと、そんな何かをトコトン突き詰めてほしいのです。そのために便利な方法は、なんとといっても読書です。インターネットでも本の注文はできますし、一部は閲覧も可能です。乱読でいいのです。何でも調べてみてください。

さらに中学3年生以上の皆さんには、少し考えてほしいことがあります。本来、学習は「やらされるものではなく」、「教え込まれる」だけでは身につけません。その意味で、私は説明会でも、普段の話の中でも、「勉強」という言葉を使うようにしていません。ぜひ、積極的に自らの力で学習に取り組んでください。もちろん、学習には効果的なやり方や学習攻略本さえありますが、所詮、それは他人のやったことに過ぎません。それさえ自らが体験し、編み出すものであって、他人から教えられるものではありません。一人になって机に向かい、時間をかけて格闘しながら手に入れるものです。塾へ行こうが、予備校へ行こうが、同じことです。最終的には、皆さんのやる気がすべてです。「やる気スイッチを押して！」という人もいますが、それさえ強制されても、スイッチは元のOFFに戻ってしまいます。「何のために学ぶのか?」「何をどう学びたいのか?」、一人ひとりが気づかなければ、やる気スイッチはONにはならないのです。

また、「学ぶ」という点について考えるなら、大学へ進む目的は、単に職業に就くためだけであってはならないのです。直接的に職業と結びつく学部学科は、医師や看護師など厚生労働省資格のわずかなものしかありません。一方で、科学の進歩や社会の変化は、皆さんが想像している以上に早いものです。つまり「学ぶ姿勢」が大切なのです。この機会に、じっくりと自分と向き合い「学ぶ意味」について考えてみてください。同時に、「その学びをもとにどう生きるのか」であり、私たちの最終目標は「幸せになること!」であり、それをどのように実現するかです。これこそがキャリアなのです。総合的推薦入試であっても一般入試であっても、役立つはず。「学ぶスイッチ」はここにあるのですから。

教職員一同、いつでも皆さん迎え入れられるよう、定期的に消毒し、衛生管理に気を配りつつ、元気な皆さんと会えることを楽しみに待っています。



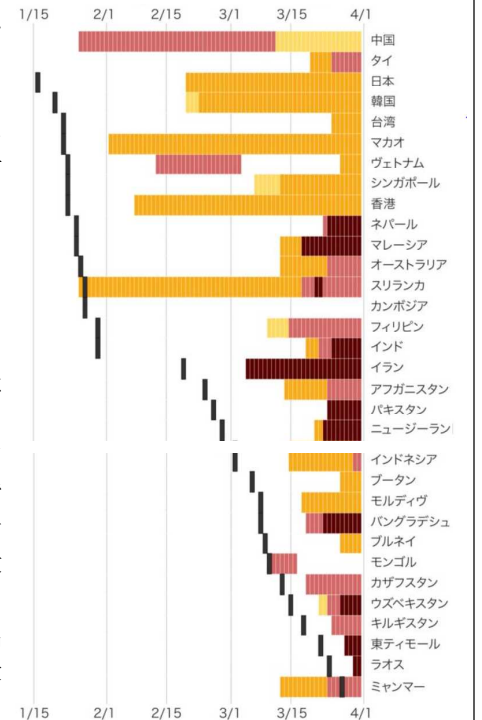
桜もスクールバスも君たちを待っている

そこで、皆さんに教科の学習とは別に、「一般教養」を磨くための2つの課題を用意しました。1つは、近畿大学医学部で免疫学を専攻している宮澤正顕先生の講義『感染症時代を生きる』(http://www.youtube.com/watch?v=aD_vMFWUf8Y&feature=youtu.be)を視聴した後に「ふりかえり」として取り組む、聖ヶ丘特製ワークシートです。ワークシートは、本校ホームページの《聖ヶ丘ニュース》にPDFファイルで掲載しています。

もう一つ、これは高校生向けですが、イギリスのボリス=ジョンソン首相が国内の約3000万世帯に国民に当てて送った手紙の全文で、これを日本語に訳すという課題で、こちらもPDFがホームページに掲載されています。ジョンソン首相は、書簡の中で「私たちは当初から、適切な対策を適切な時期に実施しようとしてきました」と述べ、「もしも科学的・医学的助言がそうしなくてはならないと言うなら、今後さらに踏み込んだ対策をためらうことなく実施します」と伝えています。エリザベス女王も5日、国民に向けた放送の中で家にいることを訴え、最後に昔流行った歌の題名にちなんで「We'll meet again. (また会いましょう)」と励ましの言葉を送りました。

資料:世界が閉じていった！— 行動制限中のアジア、オセアニア

各国で感染対策は、全世界では実に多岐にわたる。2019年末に中国で最初に新型コロナウイルスが発見された当時は、都市を封鎖するロックダウンは、かなり極端な措置だと思われた。しかし、アウトブレイク(感染の大流行)が次々と世界に広がるにつれて、抑え込むのが難しくなった。最大限に厳しい制限措置を選ぶ国が、日に日に増えた。2020年3月末までに、100を優に超える国々が、全面的あるいは部分的なロックダウンを実施した。それによって、何十億もの人々が影響を受けた。加えて多くの国が、一部もしくは全ての市民に対して行動制限を勧告した。また、南アメリカのコロンビアでは、国民ID番号の下1桁に基づいて外出が許可されている。セルビアでは、犬の散歩時間が決められた。ベラルーシでは、大統領が医療専門家の助言を無視してウオツカを飲みサウナに入れば大丈夫だと推奨している。しかし、感染症が拡大する欧米の各国の多くではロックアウトを実行し蔓延を食い止めようとしている。一方で、多くの国は一般的な対策として、住民の外出を制限し、お互いが密接しないよう間に一定の距離を保つよう求めている。このいわゆる「社会的距離」戦略は、国の全土で実施されることも、一部の地域のこともある。他方、複数の国や地域が、必要不可欠なものを除き市民のすべての移動を厳しく制限するロックダウンを実行している。また多くの国で、罰則を伴う行動の禁止や制限している。 — BBCニュースの再構成



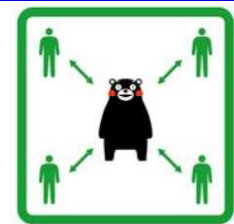
注:中国とタイは1月15日以前に感染を初確認
出典:オックスフォードCOVID-19政府対応追跡調査, BBCリサーチ

■ 最初の感染確認 ■ 地域での行動制限要請 ■ 地域封鎖
■ 全国での行動制限要請 ■ 全国封鎖

各国・地域が移動制限を開始した時期、制限の程度

Stay Home! いま私たちにできること

- 毎日、健康観察
- 外出の自粛
食料品の買い物は一人で!
- 帰ったら手洗い、消毒
- 机に向かって頭の整理!
- 部屋の掃除と整理
- 行行せず、平穏に過ごす
- 読書、心温まる映画視聴
- 何か困ったことがあったら、すぐに学校へ連絡!



くっつかないモン
#KeepDistance
保持社交距離



手を洗うモン
#WashHands
常洗手



換気をするモン
#OpenWindow
开窗通风

*くまモンのイラスト利用について、熊本県に特例措置として届出制(許諾不要)による。

